

エントランス広場ゾーン（北西）

- 大阪城公園方面からスムーズに入園しやすい広々とした空間とする。
- 交流広場ゾーンへの視線誘導、期待感、見え隠れ効果のある配置計画を行う。
- アイストップの樹木、阪神高速の遮り等、景観に配慮した植栽を行う。

交流広場ゾーン

- 便所、売店、休憩、情報発信が可能な利便性の高い複合施設を設置する。
- 周辺施設の情報サービスを提供する拠点施設とする。
- 緑の広場ゾーンとの景観と調和のとれた空間とする。



駐車場ゾーン

- 常設駐車場として史跡未指定地にバス10台が駐車可能な規模で整備する。
- 出入口は上町筋から進入する。
- 景観に配慮して、緑地等を配置する。



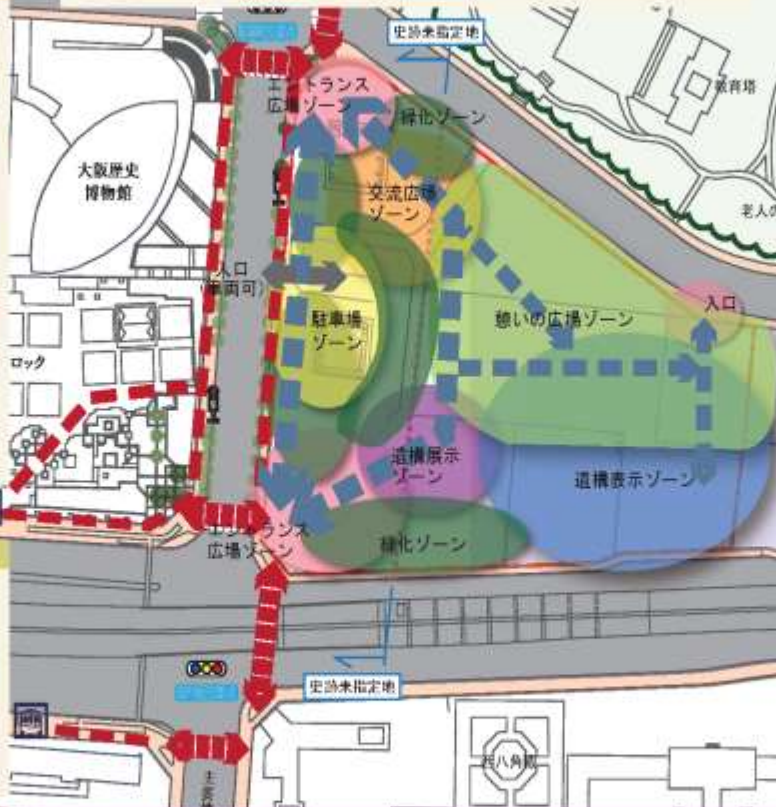
エントランス広場ゾーン（南西）

- 南部および西部ブロックとのスムーズにつながる空間とする。
- 遺構展示ゾーンへの視線誘導、期待感、見え隠れ効果のある配置計画とする。
- 大阪城天守閣を主対象とする良好な視点を活かす。
- 既に整備された西ブロックとの景観調和を図る。



緑化ゾーン

- 大阪城公園と南部ブロックの緑を連続性を感じるよう緑化ゾーンを配置する。
- 西ブロックの景観調和や楽しみある「四季の彩り」を考慮して樹種を選定する。
- エントランスを視点としたアイストップや阪神高速の遮り等、機能的に樹木を配植する。



遺構展示ゾーン

- 瓦葺き展示所は露出展示を行い、来園者に本物を伝える整備を行う。
- ガイダンス機能や休憩機能を導入した屋敷付き建物併設し、観光客の野外情報発信拠点とする。
- エントランス（南西）からアイキャッチとなる建物で、園内への誘導を促進する。



憩いの広場ゾーン

- 内裏正殿付近は、特別感を醸成する高密度植栽発生エリアとして整備
- 中軸線を軸路として整頓し、透視景観等を設置
- 本町通りは、憩いと学びのエリア



遺構表示ゾーン

- 内裏正殿は北部ブロックを見せ、南部ブロックの大規模を認識できる位置に設定する。ただし、バリアフリーに配慮する。
- 遺構内容を伝える解説板を立体的サインとして整備する。サインは大型とし、眺望も楽しめるシンボル的な施設として整備する。
- 景観阻害となる道路を緑化にて遮蔽し、快適な視点を確保する。



動線計画

- 大阪城公園と南部ブロックをつなぐ動線を上町筋沿いに整備する。
- 交流や遺構見学、情報収集ができるブロック内のメイン動線を整備する。
- 既存の入り口を活かした整備を行う。



【別図3 難波宮跡公園
北部ブロックゾーニング図】